

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立耐久高等学校（全日制）

学校長名：大西 弘之

めざす学校像 育てたい生徒像	〈学校像〉学びに対して誠実で、夢や希望を語りあえる学舎 〈生徒像〉校訓「真・健・美」を胸に刻み、人や社会のために労を惜しまず、地域の様々な分野で指導力を発揮できる生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 学校改革の方向性とその成果を周知し、地域からの理解を一層深める。 (学校マネジメントと総務に関すること)
	2 生徒一人一人に確かな学力を身につけさせるとともに、これらを活用した課題解決できる力を育成する。(教務および進路指導に関すること)
	3 高い品格と活力を兼ね備えた耐久生を育成する。 (生徒の指導と支援に関すること)

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの信頼を確固なものとし、保護者が、自分の子どもをぜひ本校に通わせたいと思えるように学校改革を成し遂げる。保護者や地域の方々、学校関係者だけではなく、中学生にとっても魅力ある学校を目指す。 生徒一人一人が、魅力的で充実感をもって学校生活を送れるような教育計画を策定するとともに、さらに地域に開かれた学校づくりに取り組む。 生徒を支える教職員の働き方について見直しを行い、さらに生徒に寄り添う指導が充実できるようにする。
学校評価の結果と改善の方策の公表	P T A通信等を活用して、保護者に自己評価及び学校関係者評価の結果等を知らせるとともに、本校ホームページにおいて広く公表する。

達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 2 2 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	学校再生に向けた改革により、生徒は日々の学習に熱心に取り組む、教員のきめ細かな指導によって、大学進学等の進路実績が改善され、安定してきたといえる。本校への地域からの期待感や信頼感は回復してきたと考える。本校の取組と成果を今後も、継続的に地域に向けて発信することに努めなければならない。	学校改革の取組が着実な成果となって現れ、関係者に広く受け入れられているか。 地域への発信が適切な方法で行われ、それにより、地域の本校への期待感と信頼感が高まっているか。	学校改革の進捗状況の分析と課題抽出を行い、適切な修正を加える。	学期に1回以上、取組についての分析検証を行い、改善策を講じる(運営委員会、分掌、学年等で)。	学校改革の方向性の検討や効果の検証等について5つのWGに分かれて協議し、職員会議で協議内容の共有や現職教育を行った。 地域の中学校を各2回程度訪問し、本校への地域の要望等を把握するとともに本校の学習活動の取組状況を的確に説明することができた。 学校開放等での来校者は、限られた人員となったが、ホームページを活用し、教育活動内容の発信を行った。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校改革の方向性が地域に浸透した結果、有田郡市からの本校志願者は一定数定着した状態である。今後も、高校再編を見据えて、地域から望まれる本校の在り方や入学してくる生徒に適した教育システム等の改善に努める必要がある。 地域と協働した取組の一層の推進を図らねばならない。その取組を通じて、本校の実績と魅力等を、広くアピールしていきたい。
			地域(中学校、教育関係者等)への情報発信を適切な資料を作成して実施し、地域からの生徒流出を抑制する。	適切な資料を用いて、十分に学校訪問等を実施できたか。入学時英数国の総合偏差値50以上の生徒数を10%程度増加させる。			
			学校教育活動の状況を正確に伝えるとともに地域での生徒の活動機会を増やす。	ワーキンググループでの検討内容を正確に伝えるとともに地域での生徒の活動機会を増やす。			
2	学習に真摯に取り組む生徒が増え、学年が上がるにつれて着実に力がついてきている。さらに、教員の教科指導力の向上をはかると共に、学習意欲が高まる仕掛けづくりに取り組む必要がある。蓄えてきた力を活かすため、地元地域だけでなく国際理解を深める行事等へも積極的に参加することも課題である。	目標を適切に設定し、主体的に学習に取り組む生徒をどれだけ育てられているか。 生徒が活躍できる場面に積極的に参画し、どれだけ自分の力量を高められるか。	生徒に高い進路目標を設定させるとともに、目標実現に向けての挑戦を支援する。	大学入試共通テスト受験生は全体の70%以上、国公立大学合格者数は全体の10%以上とする。	センター試験出願者は約60%にとどまったが、国公立大学合格者数は23名と目標値を超えることが出来た。有名私立大学合格者と併せて分析すると、30名を超える生徒に十分に国公立大学に合格できる学力を付けることができたといえる。 総合偏差値50以上の生徒は、概ね減じてはいないが、10%増加には至っていない。 オンライン開催ではあったが、アジア・オセアニア高校生フォーラムで、他の参加校との交流が出来た。	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通じた進路指導のあり方について、方向性やノウハウは共有できてきた。今後は、これまでの取組を的確に分析し、一人一人の生徒が適切な目標設定をできるように教育システムの改善を図らなければならない。 国際交流の機会は生徒を大きく成長させるものである。コロナ禍等の事態においても継続して事業を展開できるように、オンラインを通じての交流方法等を工夫していきたい。
			学力(学習成績)の着実な向上に取り組む。	各学年とも英数国の総合偏差値50以上の生徒数を減じることなく、進級後の学年では10%程度増加させる。			
			アジア・オセアニア高校生フォーラム等国際理解を深める行事への積極的な参画を促す。	国際理解を深める行事への参加者とも、前年比10%増加させる。			
3	部活動に熱心に取り組む生徒が増え、また生徒会活動や学校行事に意欲的に取り組む生徒も育ちつつある。ただし、自ら考え行動することには消極的な生徒も多く、課題と言える。	学校生活を充実感を持って過ごせているか。 地域社会への貢献に意欲的に取り組む生徒をどれだけ育てられるか。	部活動や生徒会活動への積極的で主体的な参加を促す。	部活動の実質活動率を90%以上とする。	総合的な探究の時間において、地域の人材や素材を生かしたカリキュラムが定着してきた。また、学校行事では生徒会が活発に取り組み、特に文化祭に変わる文化ウィークでの催し物や、学年別球技大会等の企画・運営を担った。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己の在り方生き方を考えさせるカリキュラムはある程度定着したといえる。今後さらに修正が必要である。 ボランティア活動の促進やクラブ活動内容の発表等、生徒が地域で活躍する機会の創出を推進する必要がある。
			地域社会へ貢献する機会を設定するとともに、高校生としてできる社会貢献について考えさせる。	地域でのボランティア活動会を設定するとともに、に参画する生徒数を前年比10%増加させる。			

学校関係者評価
令和4年3月15日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から取り組んできた学校再生改革に修正を加え、地域との連携を中心にした取組に力を入れてきたところ、有田郡市からの耐久高校への志願者は、全県的な中学生数の減少にも関わらず、一定数の定着が見られた。 学習指導や進路指導などについては、生徒一人一人に丁寧に行った結果、概ね保護者からは、肯定的な評価をいただいている。ただ、学力層が幅広い生徒の現状から、個に応じた適切な目標設定や、学習意欲も持たせ方などへの更なる工夫・改善を求める意見もある。 耐久高校の現状を正しく認識してもらうために様々な広報活動(ホームページへの学校情報の掲載や同窓会報、P T A会報等)にも積極的に、継続的に取り組んだ結果、地域からの耐久への関心が高まっている。 大学進学を志す中学生の和歌山市等への流出は常態化している。高校再編を見据え、地域そして将来県内に残る子供たちを、丁寧に育てて欲しい。そのためにも、入学してくる生徒に即した教育活動を展開して欲しい。